



2013年、今年は青枢展も40回記念展となり、公募団体として中堅的な歴史を持ちはじめたと言って良いでしょうか。ここからまた新たな気持ちで共に歩んで行きたいものです。

しかし3.11以降、すべての価値観は揺らぎ、絵画の世界も模索の時代になったのではないのでしょうか。そんな今だからこそ、会員同士の創作意欲を刺激する結束が大事なのだと考えます。

青枢通信はそんなコンセプトから、トップランナーにスポットをあてて、制作の歴史やプロセスなどをお伝えする事で、創作意識の共有を目的に発行したいと考えています。

2013.5月19日～25日まで、毎年恒例になっている此木先生のみゆき画廊での個展（ガンダ彫刻）に行ってきました。会場で此木先生に私（米谷）がインタビューをしてきましたので、その内容からお伝えしたいと思います。

米谷「毎年彫刻展を行われていますが、みゆき画廊での個展は何回目になるのでしょうか？」

此木「もともと学生時代からここでやっているの、もう58年前になります。みゆき画廊が出来て2年程の頃からなので、長い付き合いだね。」

米谷「それはすごいですね。今はここでは彫刻展が多いようですが、絵画に留まらない彫刻への興味はいつ頃からなんですか？」

此木「ローマアカデミア時代から、彫刻家の知人などの影響もあり興味があって、特に最近の事という訳ではありません。学生の時、アルバイトでクラブの内装仕事を引き受けて、壁に鉄くずのレリーフを制作したのが今のガンダ彫刻のルーツですね。」

米谷「なるほど、すでに学生時代から多方面での制作をされていたんですね。彫刻は工場を借りて制作されているとお聞きしていますが、ご苦労もあるのではないですか？」



みゆき画廊にて・此木三紅大先生

此木「溶接をやるので火傷が絶えないし、夏は暑く、冬は鉄が冷たくて作業は厳しい。必然的に春・秋に彫刻の制作時期は限定されます。また重い金属を扱うから体力的にも厳しい作業ですね。ほら腕は火傷だらけ（笑）」

米谷「先生のような方が、そんなハードな仕事をされている事に頭が下がる思いです。制作の過程で、私なんかはつい安易な方に流れたり、時間や素材のせいにしてたり…いろいろ反省です。」

鉄の廃材を使われていますが、発想の段階ではスケッチなどもされるのでしょうか？」

此木「いや、この彫刻に限っては素材を並べるところから発想します。スケッチよりも素材ありきですね。絵画制作だとスケッチブックも時々使いますが、やはり自分は方向性が見えたらすぐキャンバスに向かっちゃいます。描きながらそこで起きる偶然性にも期待して、模索しながら描いていくのが私のやり方ですね。」

米谷「やはり理論より実践、此木先生らしい制作スタイルですね。そのあたりのプロセスは私も似た感じなので、少し安心しました（笑）」

今までの作品を拝見すると、鉄のみならず、木材などの廃材も一部組み合わせられていますが、今後、どんな展開を考えていらっしゃるのでしょうか？また、テーマというところはどうでしょうか？」

此木「まず重くて加工が大変な鉄から、樹脂素材等への移行を考えています。鉄では工場を借りなければいけないし、体力の事もね。」

もっと自由に加工が出来る樹脂なら自分のアトリエで制作出来るしね。」

あと、私の彫刻のテーマというのは、もうずっと（生きたもの）なんだよね、実在するしないに関わらず。そのあたりはずっと変わってないですね。」





米谷「言われてみれば先生の作品は、今風の言い方で言えばキャラクター的な作品とも言える感じですね。それらのキャラ達が生き生きと、楽しみに語りかけてくるようです。喜怒哀楽も様々で、その表情を見ていると癒されます。

最後に、現在とこれからの青枢会についてはどう感じていらっしゃいますか？」

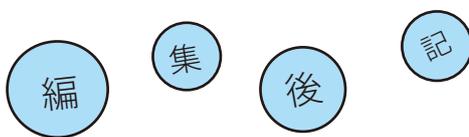
此木「自分達が青枢会を立ち上げた頃と今では、色々と社会状況も違うし、お金の問題も今はかなり大きいですから、難しいですね。

昔と同じように、という訳にはいかない。各々の事情はまちまちだから、それらを受け入れてやっていくしかないんじゃないでしょうか？

でも、派閥のようなものがない会であり、いろんな人がいるのは素晴らしい事です。何より自由な会である事がモットーですから。」

米谷「そうですね、皆が自由なスタンスで制作出来るのは青枢会の良いところだなとは私も常々感じています。

今日は貴重なお時間をありがとうございます。また今後共、ご指導よろしく申し上げます。」



毎年みゆき画廊での個展のみならず、他の画廊での個展も含めて、すべて新作が並んでいるのを驚きを持って拝見しています。

いったいどこからこのパワーが出てくるのか、素晴らしいの一言ですが、それと共に、自分の不甲斐なさに反省ばかりです。

でもまずは第40回青枢展を最高の舞台として、良い作品を並べて成功させたい…そういう思いを新たにしています。

我こそは、という作品で会場を埋め尽くすつもりで、皆さんの力作を期待しています。



本展に向けて現在、役員の縄手さんのデザインで図録・チラシ・DMなどのデザイン案があがってきています。

今回の表紙を飾るのは理事・森博美先生です。作品が大変モダンなので、自然と表紙もモダンなものになるようで、楽しみです。

東京都美術館に戻って、前回から入場無料として今回2回目。

どこまで入場者を増やしていけるか、少しずつでも口コミなどで青枢会の存在をアピールしていけるよう、見応えのある作品作りをしていきましょう。

また、会場構成や40回記念イベントなどは何か考えるか等、これから具体的にスタートです。

公募団体は今後、生き残りをかけた真価が問われる時代になっていくと思います。

気持ちを新たに、マンネリに陥らず、常に新しい表現を求めて参りましょう。